

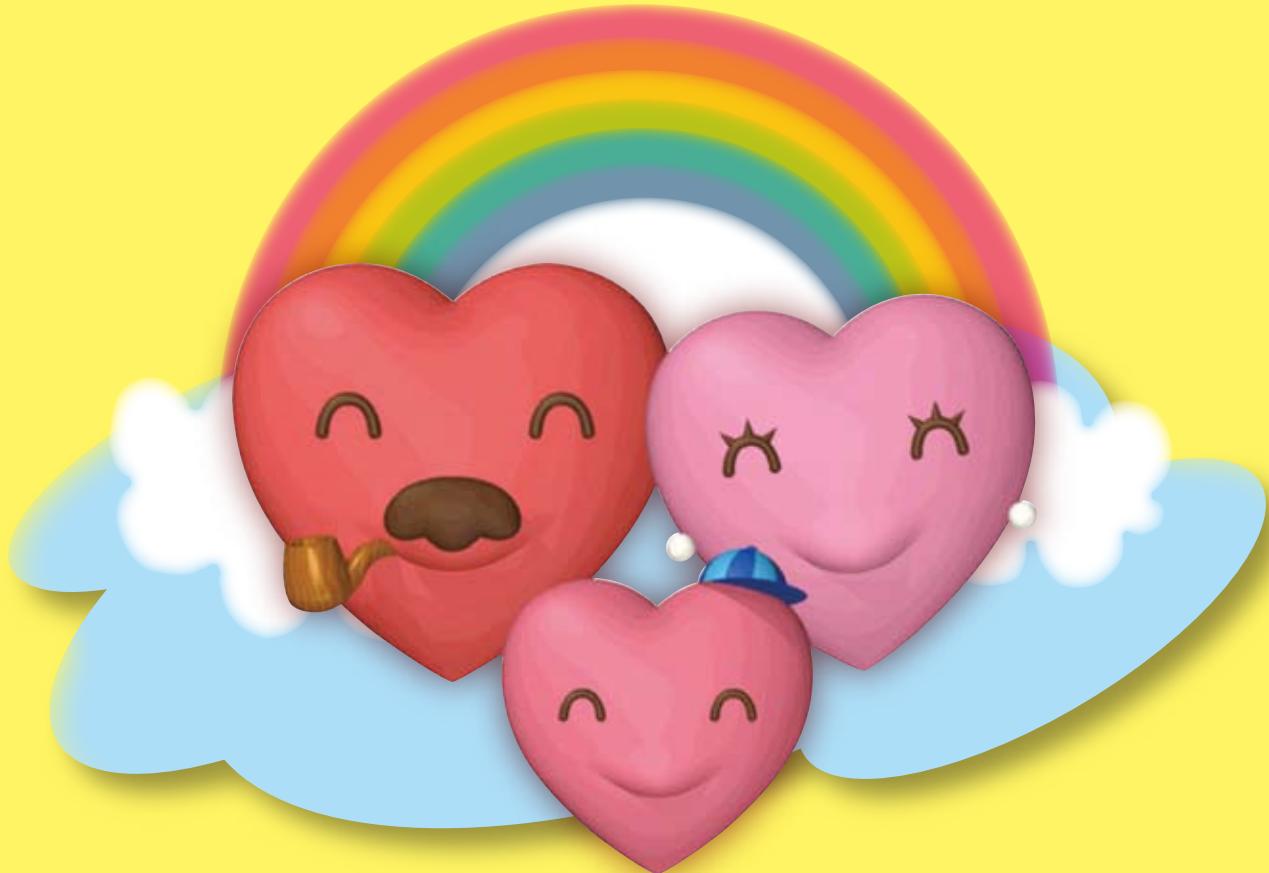


みんな & おとこ 個性が輝く まちが輝く

とうぎやざー

八女市男女共同参画の実現に向けて

2010.12.第3号



情報誌「とうぎやざー」
は、男女ともに個性と
能力が十分に發揮で
きる八女市を願って
名付けました。

目 次

八女市合併記念男女共同参画講演会「食から広がる家族のキズナ」講師 佐藤 剛史さん	2
なんでじゃろか？	3
男と女の川柳・妻の言い分 夫の言い分・編集後記	4

八女市合併記念男女共同参画講演会



平成22年10月9日（土） 八女市農業活性化センター

演題 「食から広がる家族のキズナ」

講師 佐藤剛史さん 九州大学大学院農学研究院助教 農学博士



地元で活躍中のコーラスグループ、「上陽コーラスあじさい」のオープニングセレモニーに始まり、実行委員長、来賓あいさつの後、講演、質疑応答、謝辞というプログラムで会は進行しました。

講師の佐藤さんは、冒頭、「女性が社会に出て活動するためには、男性も家事の役割分担をする必要がありますが、どんな家事をされていますか？」と、前列に座っていた数名の男性に質問されたところ、『炊事、洗濯、掃除、茶碗洗い程度』の回答が返ってきました。佐藤さんは、「私も家事をしているが、自分のできることを増やしていくことは楽しみであり、挑戦であり、成長の人生である。その結果、妻の家事負担が減り、彼女の人生の応援ができるのではないかと思っている。」とご自身の話をされたあと、本題に入られ、お弁当に思い出が詰まった、いくつかのエピソードを紹介されました。



親が子どものために作った食事や弁当はその子が何才になっても消えない、親から受けた愛情なのだと、どのエピソードからも感じられました。しかし、愛情いっぱいで育った子どもも親元を離れ一人暮らしを始めると、食生活が乱れてしまうそうです。ある大学でアンケート調査をしたところ、朝食をとらない学生が何人もいて、昼はコンビニ弁当、夜は食事ではなく、菓子などで済ませてしまうこともあり、食生活が変わってくるという結果が出たそうです。コンビニやファストフードの店が学校の周囲には必ずといっていいほどあって困らないため、自炊が出来る学生は殆どいないということです。

この状況が分かった時、ある小学校の取り組みを知ったそうです。その小学校では月に一度、子どもが親の手を借りず、自分で作った弁当を持ってくる日があるそうです。その弁当をスライドで紹介されました

とてもユニークな弁当を持ってくる子もいて、会場は大爆笑でした。この経験から子ども達は自信を持ち、自立心や食べ物への感謝の気持ちも芽生え、給食の残食も少なくなったそうです。また、親子の会話も増えたということでした。

最後に、幼い娘を残して乳がんで亡くなったお母さんの話を紹介されました。



『25歳で乳がんを発症。手術後、奇跡的に妊娠、そして出産。しかし育児中に乳がんが再発し、余命を知らされました。娘は天から自分達のところに来てくれた宝物だから、数十年後にきちんと社会にお返しできるように心をこめて育てなければいけないと、3つの約束事を決めました。①自分の身の回りのことは自分ですること。②簡単な家事は一通り出来ること。③家族のために食事の準備をするのは楽しいという心を持つこと。5歳になった娘は味噌汁が作れるようになり、小学校に入学する頃には仕事で帰りが遅いお父さんのために食事が作れるようになりました。』

この話を知った佐藤さんは親が子どもに伝え残してやれることは何だろうと考えさせられたそうです。

人が人として、毎日楽しく幸せに暮らして行く力を育てることが重要で、それは、家事の力、炊事の力だと説かれました。また、地域みんなで支え合い協力しながら、男性がやれること、女性がやれることをきちんとし、未来のために頑張ろうとすることが良い社会を作っていくし、それが男女共同参画だと思うと話されました。

スライドを使って視覚に訴え、情感あふれるBGMを使い、まるで詩を朗読しているかのようなエピソードの紹介は聴覚に訴え、涙あり、笑いありの講演会でした。



声
（60歳代 女性）
びが自分の喜びです。
は感謝、食べた人の喜
料理はやしさ、料理

一生懸命愛情込めて、
また料理を作ろうと思
いました。一つ残念に
思ったのは、若いお母
さんが少なかつこと
です。もっと若い方に
聞いてほしかったです。
涙が出ました。親、祖
父母の温かさを思い出
すことができました。
その心、温かさを、い
う我が家に伝えてい
きたいと思います。家
族のキズナを大切にし
ていきたいと思いま
す。（30歳代 男性）



声

アシケート



年度変わりの地区長選出のとき

「今年は順番からいくと、〇〇さん宅じゃったね。」と、順番で役員が決められている地区も多いと思います。しかし、指名されるのも、推薦されるのも、夫の太郎さんであり、妻の花子さんではないんです。 **なんでじゅうか？**



テレビ番組のタイトルなどで

『女弁護士の事件簿』や『女検察官の事件簿』などのタイトルが目立ちます。男弁護士とか男検察官という言い方はないように思います。視聴者の関心を引くために、女〇〇、美人〇〇というタイトルを付けるのかもしれません、特別職に対する女性の参画はまだ珍しいということの証なのでしょうか。 **なんでじゅうか？**



地域の話し合いの場で

女性は、お茶の接待に追われて、話し合いに参加できないことが多く見受けられます。ポットと湯呑みがあれば、自分で入れて飲めばいいのに。準備も後片付けもほとんど女性の仕事になっていますよね。

なんでじゅうか？



地域の行事

女性が会議等に出ると、家に男はないのかと言われる。又、道路愛護や河川掃除などに出られない時の出不足料は、男と女に格差がある。 **なんでじゅうか？**

ある歓送迎会での風景

「男5000円 女3000円ばい」と幹事さんが会費を徴収しています。はじめから男、女と分けないで、割り勘で良いんじゃないでしょうか。 **なんでじゅうか？**

民生委員、農業委員

女性の委員選出の意見に対し、男性が「女ばや…、もう順番が（男性に）決まつたるばい」と言い、女性が「女がでしゃばらんでん」と、女性のやる気をつぶす。又、女性の意見に対して、男性がもみ消しにかかる。多勢の男性委員の中で、女性委員の意見は通らない。 **なんでじゅうか？**

ほかにも
「なんでじゅうか？」
がいっぱい！

- ★寡婦世帯以外の世帯主は殆ど男性
- ★結婚すると殆ど当たり前のように夫の姓に
- ★男は泣いたらいかん？ 感動したとき、悔しいとき男も泣きます。
- ★「男のくせに、女のくせに」は、そろそろ卒業しましょう。

なんでじゅうか？、川柳などなど、皆さまからの投稿を、随時募集します。
とうぎやざー編集部『こらぼれーと』
までFAXでお寄せください
◎お問い合わせ先・FAX送付先
八女市男女共同参画推進係
FAX 22-2186 電話 23-1314

募集します！



■保健師、助産師、看護師 ■
「女 看護婦、男 看護士」と
呼んでいたが、2002年3月、
法律の題名が「保健師、助産師、
看護師」と改正されたとともに、
男女関わりなく改正された。
1999年4月1日、男女雇用
機会均等法施行令が改正され、保
母の呼称が、保育士に改称。しか
し、長年女性の職場であつたた
め、待遇の不満や就労に必要な設
備（更衣室、トイレ）が欠落して
いる等で、男性保育士の就労が阻
まれている現実もある。



お願いね
よしわかつたよ
いい言葉
(七十歳代 男性)

婦唱夫隨
辞書にはないが
あるらしい
(八十歳代 男性)



旅終えて
帰れば食器山こづみ
(思わず溜息の妻)

言わざとも

察して助け家事育児
(鈍感な夫の妻)



妻の言い分夫の言い分



家族同士大変な時にお互い手を差し伸べることは当たり前だと思うのですが、現実は女性の負担が重くなっています。自然と助け合える関係が理想です。

四十歳代 妻

仕事で遅くなる日ぐらいは自分で作って食べていてよ。

五十歳代 妻

自立してほしい。

四十歳代 妻

互いに納得し認め合っているつもり。妻が病気等で家事を出来ない時は、全てやるよ。夫婦の会話は常に行っており、合格点はもらえるかな？ 妻にも合格点をつけています。

五十歳代 夫

最近、妻の仕事が忙しく、主夫業もこなしている毎日です。どんなに忙しくても悔しくても、黙々と家事をこなしています。何の問題もありません。(>_<)

四十歳代 夫

「男女共同参画」の考え方は、微々たる進歩ですが、広がりつつあるようではあっても、講演会への出席者は女性が多く、男性や行政区長の出席は「く少數」という現状を見る時、まだまだの感を強く持ちます。

西日本新聞の記事によりますと、男女同権の浸透率は、世界でわが国は九十七位と低く、お隣の韓国は四十八位ということで、ずいぶん遅れているようです。

まず、地域の代表者から意識を高めていたくためにも、講演会等への参加を希望するのは、筆者だけでしようか……？

「男女共同参画宣言都市」となつて三年。日々の暮らしの中で、「おやつ?」「なんでだろう?」と思う事が多々出てきました。今号は、そんな中のいくつかを拾つてみました。

編集後記

